

り、今いふものは舵也、日本紀に、かちとよめり、又舵に作る、全浙兵制録も同じ、或は槳を訓せり、お
もかち、は、面かち也、右にやるをいふ、とりかち、は、操かち也、左にやるをいふ也、逍遙院西實隆の歌
に、

くる鴈や水のおもかちとりかち、こゑもすがたも沖のともぶね

わいかち、は、脇かちの義也、腰舵を訓す、

〔類聚名物考 船車二〕脇楫 わいかち

本楫は船の尾に有、その又たすけに船の兩脇にまかけし楫を云、わきかちなるを、わいかちとい
ふは音便にて、わいだての類ひ也、

〔古事記中應神〕於是大山守命者、違天皇之命、猶欲獲天下、有殺其弟皇子和紀、宇遲能之情、竊設兵將攻中

略故聞驚、以兵伏河邊、中更爲其兄王守命、渡河之時、具飾船楫者、春佐那此二字、葛之根、取其汁

滑而塗其船中之簀、椅設踏應、仆而其王子者、服布衣、既爲賤人之形、執楫立船、

〔日本書紀二十敏達〕二年五月戊辰、勅吉備海部直難波、送高麗使、八月丁未、送使難波、還來復命曰、海裏

鯨魚大集、遮嚙船、與楫、櫂、難波等、恐魚吞船、不得入海、

〔倭名類聚抄舟具〕施 唐韻云、施、徒可反、上聲之、正船木也、楊氏漢語抄云、舵船尾也、或作舵、和語多伊

是師

〔箋注倭名類聚抄舟具〕廣韻云、舵、正舟木也、舵上同、按玉篇、舵、正船木也、孫氏蓋依此釋名、船、其尾曰

舵、舵、舵也、在後見、舵、曳也、且弼、正船使、順流不使他戾也、按說文、無舵字、當從釋名所說作、舵、後以其

物用木造、省手、從木、或從舟也、中廣韻、舵、俗從也、按舵、舵同字、依例所引漢語抄、當在上文注末、而

此大書者、似源君不辨、舵、舵同字、中按古事記云、倭建命、足不得步、成當藝斯形、謂足腫如舵形也、

太以之、即當藝斯之轉、今俗呼加遲者是、然今時加遲、不似腫足之狀、蓋古今其制不同也、